

臨床医学研究のお知らせ

板橋中央総合病院では、将来の医療を向上させるため下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを望まない場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

研究課題名	長期挿管後に抜管された患者に対する嚥下内視鏡検査の所見と嚥下障害の実態に関する後方視的観察研究
研究責任者	板橋中央総合病院 集中治療科 佐藤綾美
研究の対象	2023 年 7 月 1 日～2025 年 7 月 31 日の期間、当院集中治療室に入室し 48 時間以上の経口気管挿管後に抜管され、嚥下内視鏡による嚥下機能評価を受けた成人患者（18 歳以上）
研究の目的	集中治療室では、重い病気の治療のため、口から気管に管を入れて（経口気管挿管）人工呼吸を行うことがあります。長く（2 日以上）この管を入れていると、飲み込みの力（嚥下機能）が弱くなり、食べ物や飲み物が誤って気管に入ってしまう「誤嚥」が起こりやすくなることがあります。誤嚥は肺炎の原因となり、回復を遅らせることがあります。当院では、こうした患者さまに対して、嚥下内視鏡検査（鼻から細いカメラを入れて飲み込みの様子を見る検査）を行い、安全に食事を始められるかどうかを確認しています。今回の研究では、過去の診療記録を振り返り、この検査の結果とその後の経過（肺炎の有無や食事開始の時期など）を調べることで、嚥下機能の低下がどのくらい起きているのか、どのような人が誤嚥を起こしやすいのかを明らかにします。この研究は、電子カルテに記載してある情報を分析するものであり、研究対象者となっても新たな負担等はありません。この研究で得られた結果は、今後の治療や検査の改善に役立て、安全に経口摂取を始めるための方法づくりに活かすことを目指します。
研究の方法	この研究は、過去に当院集中治療室で治療を受けた患者さまの診療記録をもとに行う後ろ向きの調査です。新たに検査や治療を行うことはありません。対象となるのは、集中治療室で 48 時間以上経口挿管による人工呼吸を行い、その後抜管された 18 歳以上の方です。診療記録から、年齢や性別、病気の種類、人工呼吸の期間、嚥下内視鏡検査の結果、その後の食事開始の時期や肺炎の有無などを集めて分析します。
研究期間	承認後～2027 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報等	患者さまの基本情報：年齢、性別、体格（BMI）、持っていた病気（基礎疾患）、緊急入院かどうか、入院時の重症度（SOFA スコアや APACHE II スコアといった医療の評価指標） 集中治療室での治療の経過：人工呼吸のための気管挿管の期間、抜管後に再び挿管が必要になったかどうか、鎮痛薬・鎮静薬・筋肉をゆるめる薬の使用歴、嚥下検査時の意識の状態、栄養状態 言語聴覚士による嚥下（飲み込み）機能の検査結果：唾液や水、食べ物を使

	った簡易検査の結果や、口や喉の健康状態の評価、声の質や発声時間の測定結果 嚥下内視鏡検査の結果：検査を行った時期、誤嚥があったかどうか、兵頭スコアという評価点数、経口摂取を再開できるかどうか（再開できる場合は、そのときの食事の形態） その後の経過（転帰）：集中治療室で過ごした日数、誤嚥性肺炎の発症の有無（入院中、最大で抜管後 30 日まで）、入院中の死亡の有無、入院期間、退院先（自宅や施設など）
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者さまを特定できるような内容は削除します。研究成果は学会等での発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる情報は使用いたしません。
お問合せ先	板橋中央総合病院 集中治療科 佐藤綾美 電話番号：03-3967-1181